

メディアの中の甲子園・高校野球

——新聞・テレビの報道量を中心に——

木原資裕*, 櫛木雄介**

(キーワード: 甲子園, 高校野球, 高校総体, 新聞, テレビ)

I. はじめに

2009年3月21日、第81回選抜高等学校野球大会の開会式が新装なった甲子園球場で行われ、挨拶にたった大会会長の朝比奈豊・毎日新聞社社長と塩谷立・文部科学大臣(当時)は、奇しくも同じフレーズの発言をしている。それは、ちょうどWBCの日本代表が決勝進出を決めたことを讃えながら¹⁾、「日本の野球の原点は甲子園にある。」というものであった。

全国高等学校野球連盟(以下高野連)のホームページによると現在(2009年3月)の加盟校は硬式だけで4,163校、登録部員数は169,298名となっている。全国の高等学校数は5,360校であるので、全国の約78%の高等学校が高野連に加盟し、甲子園を目指していることになる。

また、現在では「甲子園」という言葉は単に野球場を意味するだけでなく、野球以外のところでも使われている。たとえば、「俳句甲子園」、「まんが甲子園」、「ディベート甲子園」「書道ガールズ甲子園」などである。しかも、その行事は甲子園球場で行われてはいない。「甲子園」という言葉の中に高校生が集う聖地—最高の戦いの場という意味が形成されていることは明らかである。

さらに甲子園での高校野球が持つ緊張感の中、高校野球が作り出すドラマ的要素や注目選手の存在により、大会が盛り上がっている。夏に行われる全国高等学校野球選手権大会は2009年8月に91回大会が行われており、この盛り上がりは現在までに91回も繰り返されることにより、国民的行事ともいえる大イベントが形成されている。

このイベント形成には、特にテレビ普及なされる1960年代までは、毎日のベストセラーといわれる新聞の存在が大きく影響を与えている。[井上, 1996] テレビ普及後も新聞とテレビにおいて甲子園での高校野球が大きく取り上げられていることは周知の事実である。筆者らは、冒頭述べた「日本の野球の原点は甲子園に」²⁾ あらしめたのは、新聞とテレビではないかと考えている。しかし、新聞とテレビにおいて、高校野球がどのように扱われているのかという実証的な報告はあまりみられない。

また、新聞・テレビの扱われ方により、甲子園出場校のイメージアップが図られ、さらには、多大な寄付金が集められ、高野連自体にも大きな収益をもたらしている。

よって、本研究はメディアでの扱いの中で高校野球がどれだけ他のスポーツと比較して、どのように特異な存在であるのかについて新聞掲載面積やテレビ放送時間などの実証的データをもとに明らかにするとともに、甲子園高校野球がもたらす収益を公表されているレベルで明らかにすることを目的とするものである。

II. 研究方法

1. 対象新聞

新聞掲載面積を測定するにあたって、次の新聞の「朝夕刊セット版」ではなく「総合版」を対象とすることとした。ただし、徳島新聞には「総合版」がないため「朝刊」を対象とした。

- ①朝日新聞：全国高等学校野球選手権大会を高野連とともに主催している全国紙
- ②徳島新聞：筆者らが居住する徳島県における朝刊世帯普及率約82%である地方紙

*鳴門教育大学大学院芸術・健康系教育部(保健体育)

**徳島県那賀町立鷺敷中学校

③読売新聞：高校野球大会を主催していない全国紙（2009年2月の販売部数全国1位10,015,739部：読売新聞ホームページより）

2. 新聞掲載面積測定

全国高等学校野球選手権大会および高校総体が実施されている期間である2006年8月（1ヶ月間）の上記新聞三紙のスポーツ関連記事、および、明治神宮野球大会関連記事（2006年11月11日～11月16日）の新聞掲載面積をメジャーで測定し、各競技ごとに分類した。その際の主な留意事項としては以下の点がある。

- ①オピニオンや解説等の見出しがスポーツ内容である場合、スポーツとして扱う。
- ②外枠で線が無いところは左右または、上下が均等になるように補助線を引いて面積を測る。
- ③同一紙面で同じ文章内に様々な競技が含まれる場合、均等に扱うこととし、その競技数に応じて均等に紙面の面積を割る。
- ④高校野球は、甲子園関連、甲子園以外の高校硬式野球、軟式野球、軟式野球(高校定時制通信制)に分類する。
- ⑤プロ野球は、日本（プロ野球と表示）、MLB大リーグ、マスターズに分類する。
- ⑥野球以外は、学生・性別・プロ・アマに関わらずまとめて表示する。
- ⑦全国中学校体育大会などの野球はそのまま体育大会に含める。

3. テレビ放送時間の把握

全国高等学校野球選手権大会および、比較対象として全国高等学校総合体育大会におけるテレビ放送時間を把握するため、朝日新聞縮刷版の過去12年間のテレビ欄7月・8月分及び2007年の朝日新聞のテレビ欄8月分を分析対象とした。

4. 甲子園高校野球がもたらす資金の把握

甲子園出場を果たした四国の某公立高校が募った寄付の収支報告書を入手した。また、朝日新聞に掲載された2001年よりの甲子園大会の収支決算データを収集し、グラフ化した。

Ⅲ. 結果と考察

1. 新聞三紙におけるスポーツ記事面積の集計

表1は新聞三紙における2006年8月分の1ヶ月間のスポーツ記事面積を測定し、それぞれのスポーツ種目ごとに分類集計したものである。これをみると総合計では徳島新聞（231,544.7cm²・豊約16.0豊分）²⁾が最もスポーツ記事を多く掲載していることがわかる。次いで、朝日新聞（229,636.4cm²・豊約15.9豊分）であり、その差はパーセントで表せば1%未満である。一方、読売新聞は167,294.1cm²（豊約11.6豊分）であり、2006年8月分の1ヶ月間において、朝日新聞の約73%程度しか、スポーツ記事が掲載されていないことがわかる。

また、図1は表1の内容をグラフ化して、各新聞が掲載しているスポーツ記事面積を視覚的にとらえたものである。

(1) 朝日新聞の特徴

朝日新聞の掲載記事で最も注目すべき点は、甲子園関連が面積にして95,516.5cm²（豊約6.6豊分）で割合にして41.6%と他のスポーツ種目に比べ、突出していることである。大会期間は、8月6日から21日までの16日間であった。それに対して二番目に多いプロ野球は、ほぼ毎日行われているのにも関わらず、面積は40,527.6cm²（豊約2.8豊分）で割合にして全体の17.6%となっており、意外な数値である。

また、サッカーはJリーグだけでなく、日本人が海外へ移籍していることから、海外での日本人の活躍を伝えており、それに加えて海外のクラブの情報も多く入っている。海外の情報といえば、MLB大リーグにもここ数年で日本人がチャレンジし、成功を収める選手が増えてきている。日本人が増えたということもあり、テレビでも連日放送されており、このことは当然新聞の扱いにも影響を与えているように思われる。数値を見ると、MLB大リーグは5,889.31cm²（2.6%）（豊約0.4豊分）で六番目と上位に存在している。

さて、全国高等学校総合体育大会（以下、高校総体）は四番目に位置し、同じ高校生の全国大会の全国高等学校野球選手権大会の甲子園・高校野球関連との差は86,322.8cm²（37.6%）（豊約6.0豊分）となっている。2006年の高校総体は大阪府を中心に29競技行われているが、甲子園・高校野球関連と比べると、あまり大きく取り上げ

表1 新聞三紙におけるスポーツ記事面積 2006年8月分

内容分類	朝日新聞		徳島新聞		読売新聞	
	cm ²	%	cm ²	%	cm ²	%
甲子園・高校野球関連	95516.5	41.6	40113.1	17.3	8404.9	5.0
プロ野球	40527.6	17.6	38801.9	16.8	50341.9	30.1
サッカー	24493.5	10.7	35484.4	15.3	27093.4	16.2
全国高等学校総合体育大会	9193.7	4.0	14636.3	6.3	3327.3	2.0
ゴルフ	7270.0	3.2	10492.0	4.5	8290.9	5.0
MLB大リーグ	5889.3	2.6	6788.1	2.9	4871.1	2.9
バスケットボール	5128.2	2.2	3285.7	1.4	5280.8	3.2
水泳	4407.9	1.9	4540.1	2.0	4145.7	2.5
中学校体育大会	742.7	0.3	19258.2	8.3	318.2	0.2
オリンピック委員会・五輪招致	3750.7	1.6	3614.9	1.6	5831.1	3.5
バレーボール	2969.5	1.3	6355.9	2.7	1941.4	1.2
陸上	2626.3	1.1	4184.0	1.8	7336.0	4.4
その他	27120.4	11.8	43990.2	19.0	40111.6	24.0
計	229636.4	100.0	231544.7	100.0	167294.1	100.0

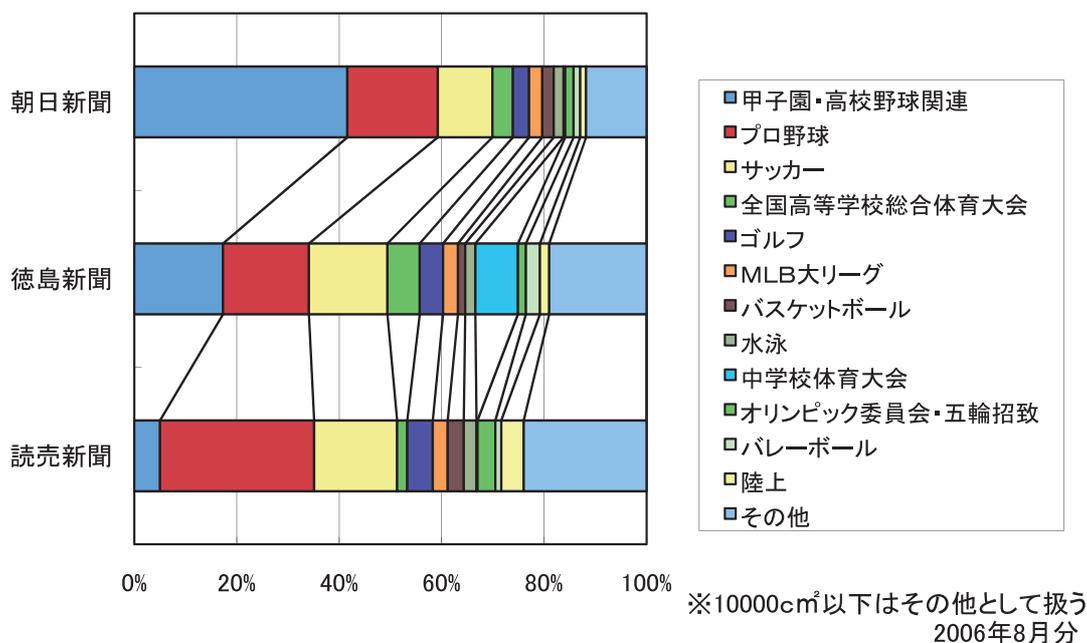


図1 新聞三紙におけるスポーツ記事面積の比率

られていない。

(2) 徳島新聞の特徴

徳島新聞で注目すべきは、四番目に多く取り上げられている全国中学校体育大会である。これは今回、四国四県で開催されたということがもっとも大きな要因と思われる。高校の全国大会である高校総体よりも4,621.9cm²（畳約0.3畳分）も多く取り上げられている。ちなみに全国中学校体育大会が取り上げられた期間は16日間である。また、徳島新聞においては、全国中学校体育大会や全国高校総体での徳島県選手の活躍が大きく扱われていることが特徴である。

一方で、甲子園関連の記事は予想以上に少なく、この年、徳島県勢は一回戦で敗退していることが少なからず面積にも影響を与えていると思われる。

サッカーは、徳島にJ2の徳島ヴォルティスが存在していることにより、J2の記事も増えている。他にもJ1や海外のプロサッカーの報道も多く、また、県内のアマチュアサッカーの記事も多く扱われている。サッカーのローカル記事の多さが三番目に面積を多く占めている理由の一つといえる。

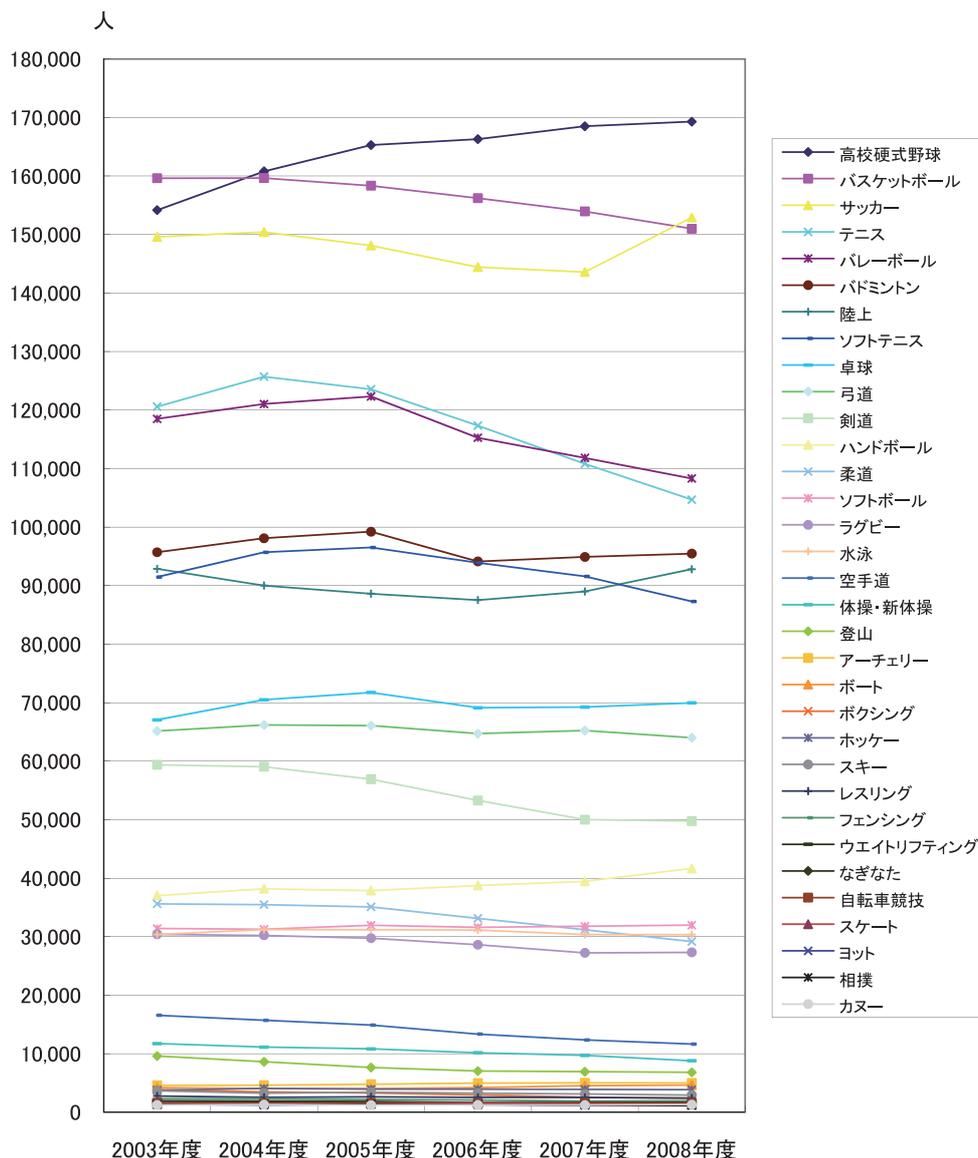


図2 高校硬式野球と高体連の登録人数比較

甲子園関連 (17.3%)・プロ野球 (16.8%)・サッカー (15.3%) と上位3つがほぼ均等であり、全国中学校体育大会と全国高校総体がそれに続いており、地方紙として、地元県内選手の扱いが大きい。

(3) 読売新聞の特徴

読売新聞で注目すべきところは、プロ野球の記事面積が50,341.9cm² (30.1%) (量約3.5量分) と大きく抜け出していることである。このことは、読売新聞社が1934年に大日本東京野球倶楽部 (現在の東京読売巨人軍) を創設させていること、1936年には全日本職業野球連盟の結成に中心的な役割を担ったことなどが大きく影響を与えているものと推察できる。

二番目に多く面積を占めているサッカー (16.2%) でも、約1/4程度はアマチュアサッカーを取り上げているものの、プロサッカーが中心となっている。また、甲子園関連の記事と並んで三番目に面積が大きいゴルフ (5.0%) では、ほとんどプロゴルフしか取り上げられていない。

一方で、甲子園関連の記事は8,404.9cm² (5.0%) (量約0.6量分) で10,000cm²にも届いていないことが分かる。その分、その他として数多くの競技が40,111.6cm² (24.0%) (量約2.8量分) 取り上げられている。その中の上位に位置するのは、四国アイランドリーグ (現在は四国・九州アイランドリーグ) があり、2008年にオフィシャルメディアスポンサーとしてこのリーグを支援している。

読売新聞では、甲子園関連の取り上げ方が予想以上に少なく、プロスポーツの扱いが大きいことが特徴である。

2. 甲子園・高校野球と高校総体

(1) 登録人数の比較

『<http://www.zen-koutairen.com/>: 全国高等学校体育連盟ホームページより作成』

図2は2003年度から2008年度まで高野連の登録人数と高体連各競技の登録人数の推移を示したものである。高校硬式野球の登録人数が2003年度はバスケットボールより少ないものの、2004年度には1位に返り咲き、その後も年度を追うごとに次第に登録人数を増している。一方で高体連に所属している競技人口は、2005年度から総競技人口においても減少している。

次に、高体連と高野連（軟式を除く）に登録されている人数を比較すると、以下の図3のようになる。高校硬式野球の登録人数は高校スポーツにおいて最も多いが、高体連の総登録者数と比較すると、年度により若干の差はあるものの、高体連の約1/7でしかない。この登録者数の状況から考えると、甲子園・高校野球のメディアの取り上げ方に偏りがあることは明らかである。

(2) 新聞三紙にみる高校野球と高校総体

大会期間2006年8月6日～21日の16日間である甲子園大会において、朝日新聞で取り上げられた日数は25日、徳島新聞では27日、読売新聞では26日にも及ぶ。一方、大会期間2006年8月1日～8月25日の25日間である高校総体において、取り上げられた記事の日数は、朝日新聞で18日、徳島新聞で26日、読売新聞で19日となっている。大会期間自体は高校総体の方が長いにも関わらず徳島新聞を除く朝日新聞と読売新聞によって取り上げられた記事数は7日分少ない。甲子園関連記事はどの新聞も大会前や大会後にも多く取り上げられており、さらに、1日当たり報道される記事面積が主催である朝日新聞社を筆頭に甲子園関連記事の方が大きく扱われている。

図4は掲載日数1日当たりの掲載記事面積を示したものである。甲子園関連記事と高校総体を比較すると、朝日新聞で約7.5倍、徳島新聞で約2.6倍、読売新聞で約1.8倍それぞれ甲子園関連記事が大きく掲載されており、その扱いには大きな差が見られる。

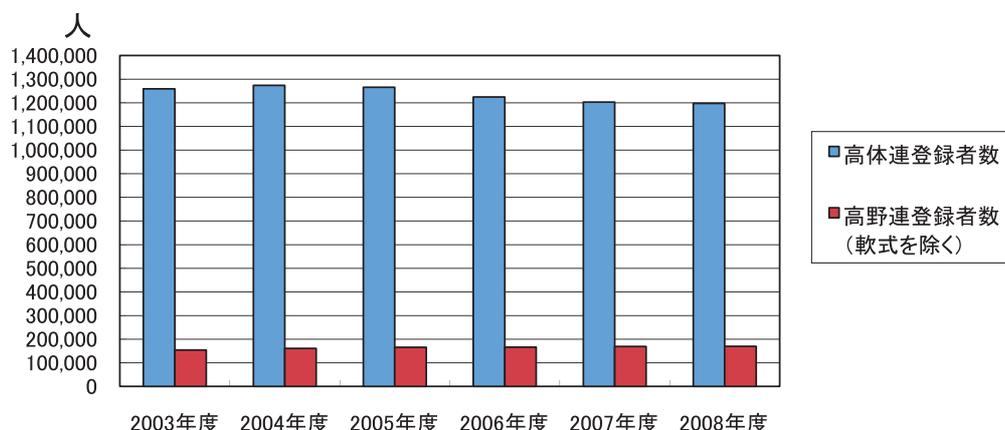


図3 高体連と高野連（軟式を除く）の登録者数比較

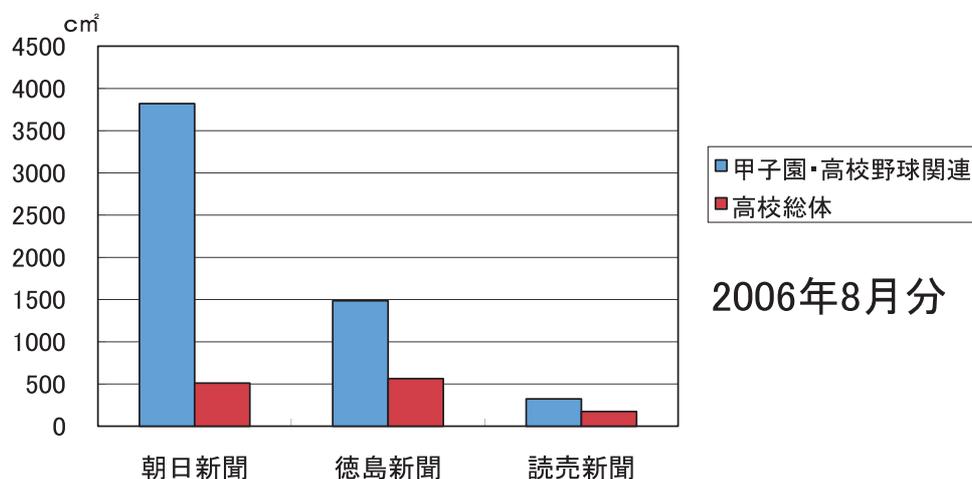


図4 高校野球・甲子園関連と高校総体の1日平均報道面積比較

(3) 高校総体におけるテレビ放送時間の実態

次にNHK教育放送における高校総体の放送時間を把握することとした。テレビ放送時間でも新聞の取り上げ方と同様に甲子園・高校野球大会との放送時間にかなりの差があると思われる。放送時間のデータについては朝日新聞縮刷版のテレビ欄における過去12年間の7月分・8月分を調べ、表2にまとめた。

どの年度も1日1時間程度で10日程度と大会期間の半分の日数しか放送されていない。ほとんどの大会でまず陸上から放送され、それから武道系(相撲・弓道・剣道・なぎなたが年ごとにローテーション)、球技系のバレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントンなどの競技となっており、最後に競泳で締めくくられている。さらに一・二回戦は放送されておらず、ほとんどが決勝のみの放送となっている。

一方、甲子園・高校野球大会はNHKが全試合完全生中継で放送しており、しかも、夏の甲子園・高校野球は民間の朝日放送(ABC)とサンテレビでも放送している。

放送時間帯にしても高校総体の方は、ほとんどが15時から17時台までの間という時間帯に録画放送されているという状況で、中には深夜に放送されている競技も過去にある。甲子園・高校野球大会のように試合開始から終了までの完全Live放送とは視聴者に与えるインパクトに大きな差があることは言うまでもない。

また、放送回数・時間、テレビ局が複数放送していることも大きな差である。高校総体はNHK教育のみの1日1時間程度録画放送であり、大会期間の約半分の日数でしか放送されていない。高校総体の年間総放送時間は8時間台から多くても12時間台となっている。

本稿では実証的なデータを提示することはできないが、高校野球と高校総体の試合放送では、カメラアングルやスローモーション場面の扱われ方や解説者・アナウンサーの力量にも大きな差があるように思える。

(4) 甲子園・高校野球と高校総体のテレビ放送の比較

図5は甲子園・高校野球と高校総体のテレビ放送時間を比較したものである。2007年のNHKでは8,888分(148時間8分)、朝日放送(ABC)で6,066分(101時間6分)、一部の試合を放送しているサンテレビで1,390分(23時間10分)となっている。NHK・朝日放送(ABC)・サンテレビでの甲子園・高校野球大会の放送時間の合計は16,344分(272時間24分)、高校総体の放送時間は655分(10時間55分)となり、甲子園・高校野球関連

表2 過去12年間の高校総体各競技のNHK教育放送時間(分)

競技名 \ 年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
(総合)開会式 (公開演技)	80	85	65	50	70	113	70	65	108	70	65	104
陸上	120	120	120	120	90	163	120	120	120	120	90	120
なぎなた	60	—	—	—	—	—	—	60	—	—	30	60
バレーボール	60	—	60	60	60	—	—	60	60	60	60	—
ホッケー	60	—	60	60	—	—	—	60	—	—	60	—
バスケットボール	60	60	60	60	60	—	—	60	60	60	—	60
サッカー	60	60	60	60	60	—	60	—	—	—	—	—
競泳	240	180	180	180	180	180	180	90	180	180	170	90
相撲	—	60	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
レスリング	—	65	—	—	30	73	60	—	—	—	—	—
ハンドボール	—	60	—	—	—	60	60	—	—	—	—	—
弓道	—	—	60	—	—	—	—	—	60	—	60	—
剣道	—	—	—	—	60	30	—	—	—	60	—	—
バドミントン	—	—	—	—	60	30	60	—	60	60	—	60
重量挙げ	—	—	—	—	—	30	—	—	—	60	60	—
テニス	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	—
新体操	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—
ソフトボール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
柔道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60

※二つ以上の競技数がある時間帯に行われている場合はその競技数で割り、均等とした。

※「ほか」は特定できないため、判明している競技の時間に含めることとした。

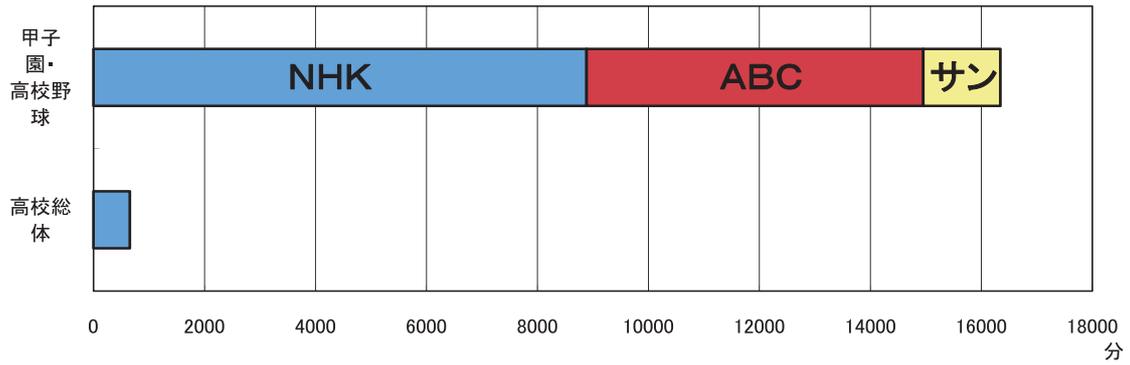


図5 2007年の高校野球・甲子園関連と高校総体の放送時間比較

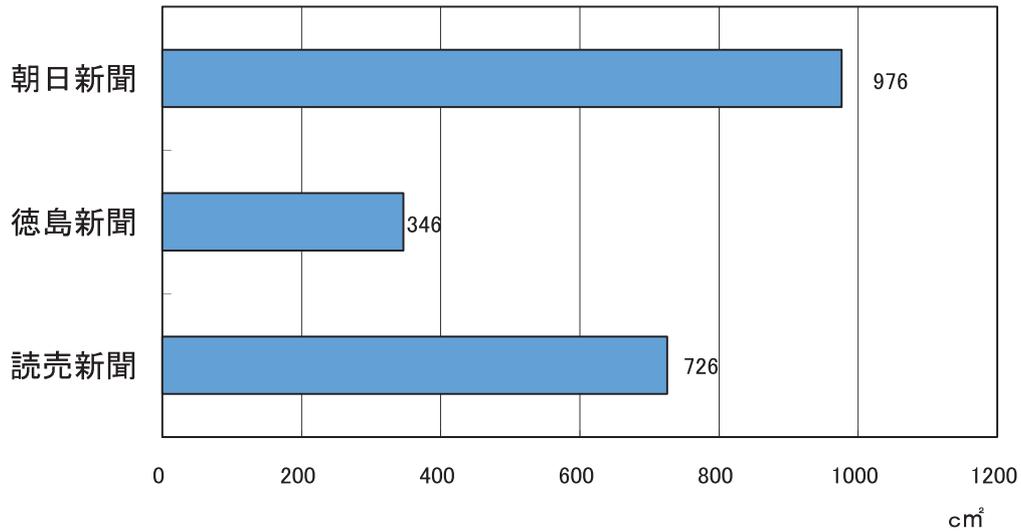


図6 新聞三社による明治神宮野球大会 (2006) 面積比較

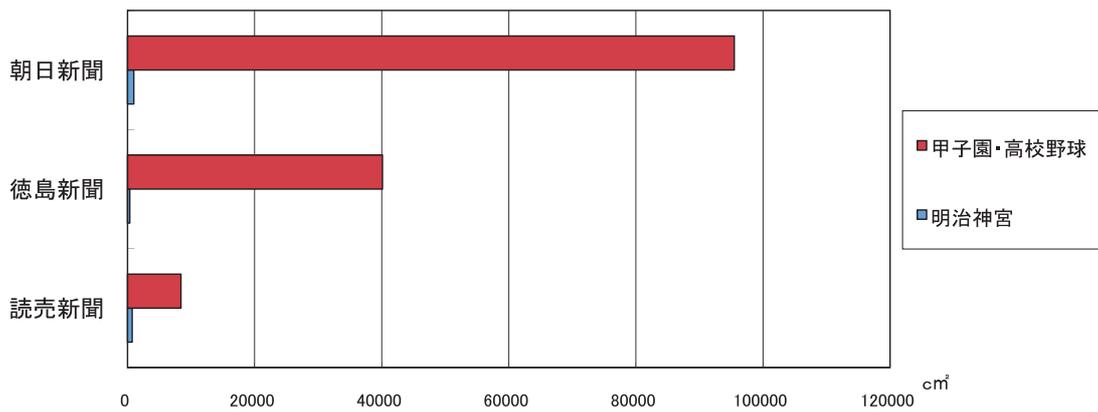


図7 新聞三紙における高校野球・甲子園関連と明治神宮大会の掲載面積比較

が約25倍長く放送時間が確保されている。さらに、ここにはニュースのスポーツコーナーやスポーツニュース等での放送時間が含まれていないので、実際の放送時間の差は25倍以上となることは明らかである。これだけ長くテレビ放送を毎年行うことで、この時期の甲子園大会に対して違和感なく受け入れることができるようになっていく。

3. 明治神宮野球大会との比較

明治神宮野球大会は明治神宮鎮座50周年を記念して1970年に奉納試合として行われた。第3回大会までは大学の部だけで、第4回大会から高校生の部が新設され、現在に至っている。

大学の部は各大学野球連盟の秋季リーグ戦優勝校、各地域のリーグ戦優勝校の中から選ばれた大学が出場する。また2005年36回大会から一部の地域で隔年出場となっていた地区連盟同士が代表決定戦を行うことで、全ての連盟が出場することができるようになる。一方高校の部では、秋季地区大会の優勝校9校と東京都秋季大会の優勝校が参加する形式を2000年からとり、秋の高校日本一を決める大会となっている。

さて、2006年は11月11日から4日間開催で11日は雨ということで15日まで行われていた。そこで朝日、徳島、読売新聞ではどれくらい取り上げられているかに焦点を当て、掲載面積を計測した。(図6)

明治神宮は大会期間が2006年の場合、11月11日からの4日間(11日は雨で中止、15日に決勝)と甲子園大会に比べて短い、同じ日本一を決める大会として、その存在感は大きいものの、朝日新聞での掲載記事は1,000cm²にも満たない。同じ高校野球の全国大会でありながら、主催者や球場がことなるだけでこれだけ扱いが異なっている。

甲子園・高校野球関連と明治神宮大会の掲載面積を比較すると図7のような。

図7より新聞三紙における甲子園・高校野球大会と明治神宮大会との扱われ方の差は明らかであり、その差はあまりにもあり過ぎると言わざるを得ない。また、明治神宮野球大会の優勝校の地区には春の選抜甲子園大会出場枠の神宮枠が与えられる大会であり、各地区の秋期大会優勝校が集うレベルの高い大会であるにも関わらず、甲子園大会ほど注目されていない。

単に日本一を目指す高校野球全国大会というだけでは、それほどメディアの扱いは大きくない。さらに、明治神宮大会の高校の部が2000年から現行の秋期地区大会優勝校が集う形式となったという歴史の浅さに加え、奉納試合という宗教色の影響も否定できない。

4. 甲子園出場が学校経営に与える影響

2006年の夏、2007年・2008年の春に四国の某公立高校が甲子園に出場している。その際、高校は寄付金を集めており、その収支報告書を入手することができた。(表3)

まず注目すべきは、2006年の寄付金の収入額の大きさである。収入が約8,800万円で一般企業から約3,300万円、卒業生から約3,000万円、PTAや教職員から約1,800万円とこれだけで9割以上を占めている。

また、それ以外に朝日新聞社等からの補助金約253万円という金額が学校に渡されている。この補助金は大会に出場する選手・監督・部長の交通費および宿泊費をまかなうものであり、寄付金がなくとも、この補助金だけで県外で宿泊を伴う対外試合をすることに支障はないはずである。

一方支出でも約4,300万円あり、派遣費の内訳は選手滞在費・選手バス代・現地移動費で、2006年の強化充実費では約700万円が割り当てられている。公立高校の一運動部に年間700万円もの強化充実費が与えられることは、甲子園出場する野球部以外にはありえないように思う。

この第88回大会では収支の差額が約4,500万円であり、学校の自由裁量もてる4,500万円もの資金が学校に入るということである。2007年の選抜大会では約3,400万円、2008年の選抜大会では約2,800万円の残金があり、甲子園大会に出場することで、この公立高校には3年間で約1億700万円もの現金をもたらすことになる。

それに加え、学校のイメージアップにもつながり、優秀な入学者が増加するということになれば、甲子園への出場は学校経営にとって魅力的なものといえる。

このことから高校生のスポーツでありながら、これだけの資金が動く上に、全国的な宣伝効果をもたらし、学校経営にも大きな影響を与えている。ここに、選手が高校日本一を目指し、甲子園に出場して活躍したいという選手側の欲求と学校経営に生かしたいという学校側からの欲求がともに相乗効果を生み出し、甲子園・高校野球が一段と熱を帯びていることが推察できる。

5. 大会収支状況の実態

選手権大会を開催するにはそれなりの財政的裏づけが必要である。そこで朝日新聞に公開されている収支決算を取り上げ、どのような状況にあるのかを把握することとした。

第90回大会は90回記念大会ということで埼玉、千葉、神奈川、愛知、大阪、兵庫でも2代表制となり出場校が55校と増加している。開会式に先立って、甲子園レジェンズという記念イベントが開かれている。そこでは、二試合連続でランニングホームランを打った中西太、米軍の統治下であって沖縄勢として初参加し、選手宣誓した仲宗根弘、1大会で83個三振を奪った坂東英二、坂東と史上初の延長18回引き分けを演じた村椿輝雄、史上初の決勝延長18回引き分けをした太田幸司、1年生エースとして準優勝した坂本桂一、3試合連続で本塁打を放った

表3 某公立高校の寄付金収支報告書

第79回(2007年) 春・選抜

第80回(2008年) 春・選抜

収入	金額(円)	支出	金額(円)	収入	金額(円)	支出	金額(円)
寄付金	58,070,139	派遣費	5,737,797	寄付金	49,276,000	派遣費	4,799,426
(内訳)		強化充実費	5,032,265	(内訳)		強化充実費	4,728,132
卒業生	21,562,000	応援費	9,511,194	卒業生	16,511,000	応援費	7,189,402
一般(企業)	27,149,139	募金活動費	5,019,967	一般(企業)	23,301,000	募金活動費	5,502,182
PTA・教職員	9,359,000	渉外費	1,937,637	PTA・教職員	9,464,000	渉外費	1,533,514
		合計	27,238,860			合計	23,752,656
補助金	1,629,600			補助金	1,167,600		
雑収入	1,402,809			雑収入	1,452,747		
合計	61,102,548	差額	33,863,688	合計	51,896,347	差額	28,143,691

第88回(2006年) 夏・選手権

収入	金額(円)	支出	金額(円)
寄付金	82,004,502	派遣費	8,376,906
(内訳)		強化充実費	6,934,050
卒業生	30,669,000	応援費	21,322,052
一般(企業)	33,028,000	募金活動費	5,589,667
PTA・教職員	18,307,502	渉外費	607,037
		合計	42,829,712
補助金	2,537,600		
雑収入	3,740,280		
合計	88,282,382	差額	45,452,670

表4 第90回(2008年) 全国高等学校野球選手権大会 収支決算書

収入の部		余剰金と繰越金	
入場料売り上げ	456,840,282	日本高校野球連盟事業推進基金	5,000,000
		全国高校軟式野球選手権大会関係費	5,000,000
中央特別自由席券	154,995,810	少年野球振興会への補助金	1,000,000
1,3塁特別自由席券	174,897,332	日本学生野球協会への補助金	1,000,000
アルプス席券	126,947,140	海外交流費	8,000,000
		記念事業関係費	8,310,088
支出の部			
大会準備費	17,867,148		
出場選手費	130,945,420		
大会役員関係費	28,312,726		
大会費	166,317,258		
大会史制作費	64,171		
地方大会費	55,023,471		
本部運営費	30,000,000		
差し引き余剰金	28,310,088		
前年度繰越金	0		
合計	28,310,088		

* 朝日新聞 2008年12月5日より

香川伸行、甲子園で通算20勝をマークした桑田真澄、史上20人目の無安打無得点を達成した芝草宇宙、最後に記憶に新しい第86回大会で優勝を果たしたときのバッテリー鈴木康仁と糸屋義典の11人が子どもたち100組と外野の芝生でキャッチボールを行っている。

一方で大会はベスト8が報徳学園(東兵庫)、大阪桐蔭(北大阪)、浦添商(沖縄)、慶応(北神奈川)、智弁和歌山(和歌山)、常葉菊川(静岡)、聖光学院(福島)、横浜(南神奈川)で近畿勢3校が勝ち残り、その内の大

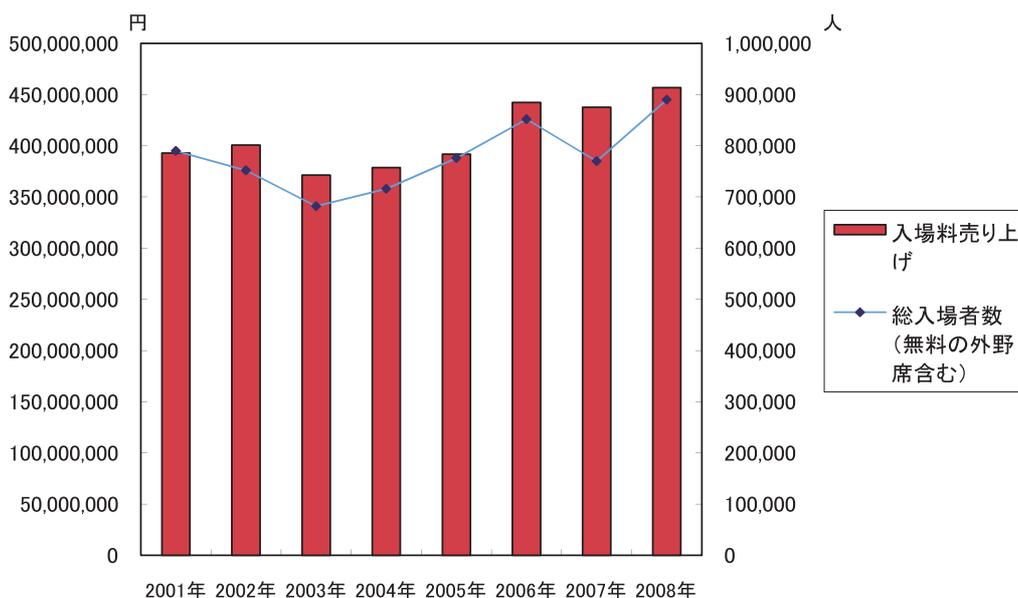


図8 入場料売り上げと総入場者数

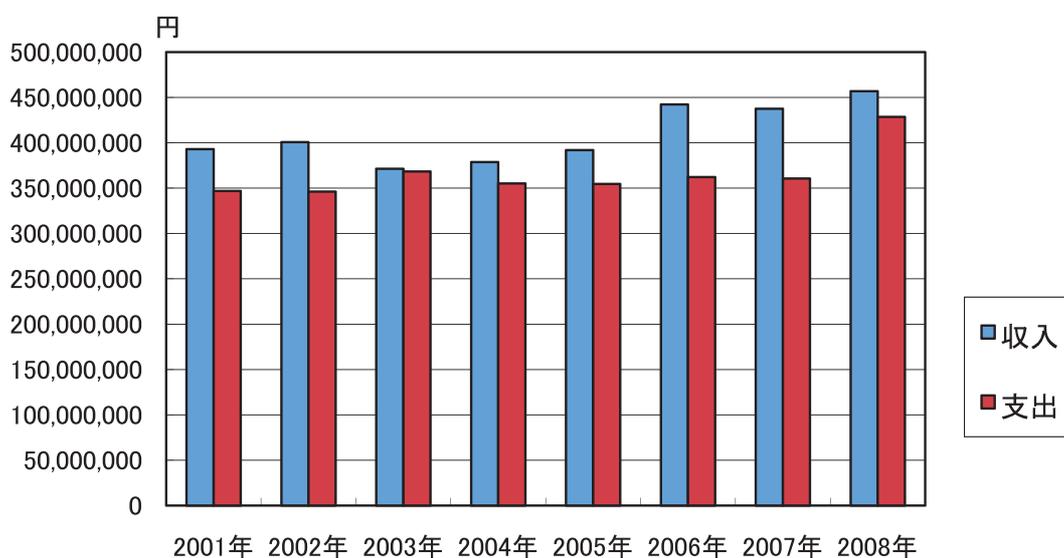


図9 全国高等学校野球選手権大会における収支状況

阪桐蔭が優勝する。近畿勢が最後まで残ることで大会が盛り上がった。本塁打も第88回のように量産し、史上二番目の49本、試合数が異なるものの1大会チーム最多打点57を記録した。

図8・図9は2001年からの朝日新聞における大会収支報告書を収集し、グラフ化したものである。

大会の収支状況は、大会内容は当然のこと、近畿勢が活躍するかが一つの鍵になっているように思える。第85回（2003年）大会の総入場者数が68万2千人と第83回大会から第90回の中で最も少なくなっている。この年はベスト8の中に近畿勢が1校も残っていなかった。

一方で、第88回（2006年）大会は駒大苫小牧の三連覇達成できるかが注目され、早稲田実業との決勝戦が延長再試合となる盛り上がりを見せた。これにより総入場者数も85万人を超えている。

さらに、入場料だけでも第83回から第90回まで通して約3億7千万円から4億5千万円を得ており、売店収益等を含めば、この大会で莫大な収益がもたらされていることが想像できる。発生した余剰金は高野連自身の事業推進基金とし、さらに、少年野球の振興、学生野球協会、全国高校軟式野球選手権大会に毎年補助金を出している。それらの積み重ねが高野連の地位をより確固たるものにしていく大きな要因だと言えよう。

IV. おわりに

これまで甲子園で選手権大会が行われる8月という期間に絞って朝日新聞、徳島新聞、読売新聞のスポーツの取り上げ方について述べてきた。新聞三社によるスポーツの取り上げ方の差異は、高校生のスポーツで同じ全国大会である甲子園と高校総体との比較の中で、特異的な傾向を示している。新聞社が各競技団体とともに主催するスポーツ大会は甲子園・高校野球以外にも毎日新聞社主催の全国高等学校ラグビーフットボール大会などかなりの数が存在している。しかし、朝日新聞が甲子園・高校野球を掲載する面積量ほどの扱いを受けているスポーツ大会は存在しない。

また、テレビ放送においても、NHKは甲子園・高校野球を全試合完全生放送しており、朝日放送(ABC)も、夏の甲子園・高校野球は生放送がなされている。ここでも、新聞同様、破格の扱いを甲子園・高校野球が受けている。

これらのメディアの扱いを通して、根強い甲子園・高校野球のファンが形成されつつ、今日に至っている。また、逆に、多くの甲子園・高校野球のファンが形成されることによって、新聞・テレビの報道量が確保されていくというシステムの循環がなされているように思える。

このメディアの過剰な報道により、甲子園大会への出場校には数千万円の寄付が集まり、学校経営上、多大な恩恵をもたらし、高野連自体にも莫大な収益が流れ込んでいる。

メディアが大きく取り上げることで、一高校スポーツが「甲子園」という言葉とともに、高校生が集う聖地―最高の戦いの場という意味合いを毎年、強調され、すり込まれているのではないだろうか。

【註】

- 1) 第2回となる'09 WORLD BASEBALL CLASSIC (WBC)において、日本代表は準決勝でアメリカに9対4、決勝でも韓国に5対3で勝ち、大会2連覇を達成している。
- 2) 団地間(公団サイズ)85cm×170cm(14,450cm²)を1畳として、換算した。

引用・参考文献

朝日新聞 縮刷版 2001年～2007年

朝日新聞2006年8月分・11月11日～16日

徳島新聞2006年8月分・11月11日～16日

読売新聞2006年8月分・11月11日～16日

徳島新聞データ <http://www.topics.or.jp/kaishaanni/>

読売新聞データ <http://adv.yomiuri.co.jp/yomiuri/n-busu/index.html>

阪神甲子園球場：

<http://www.hanshin.co.jp/koshien/stadiuminfo/history.html>

日本高等学校体育連盟：

<http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-15nen.pdf>

<http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-16nen.pdf>

<http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-17nen.pdf>

<http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-18nen.pdf>

<http://www.zen-koutairen.com/pdf/reg-19nen.pdf>

http://www.zen-koutairen.com/f_regist.html

http://www.jhbf.or.jp/data/statistical/index_koushiki.html

日本高等学校野球連盟：<http://www.jhbf.or.jp/sensyuken/history/>

明治神宮：

http://www.student-baseball.or.jp/game/jingu/jingu_outline.html

江刺正吾・小椋博, 1995『高校野球の社会学―甲子園を読む―』, 世界思想社

- 井上 俊・西山哲郎, 1996 「スポーツとメディア・イベントー「武道」の形成とスポーツの「武道」化」, 津金澤聰廣編『近代日本のメディア・イベント』, 115-140, 同文館
- 石坂友司, 2008, 特待生制度問題にみる甲子園野球の神話作用に関する一考察, 関東学園大学紀要 Vol.16, 1-14
- 亀山佳明編, 1992, 『スポーツ社会学』世界思想社
- 神原直幸, 2001, 『メディアスポーツの視点ー疑似環境の中のスポーツと人』学文社
- 木原資裕, 1987, 学校教育における運動部活動に関する研究ーその発展過程と教育的機能についてー, 聖カタリナ女子短期大学紀 No.20, 212-228
- 木原資裕・菅野智雄, 1997, マスメディアの中のスポーツ(1)ーテレビスポーツ番組の分析を通してー, 鳴門教育大学紀要 Vol.12, 53-60
- 西原茂樹, 2004, 東京・大阪両都市の新聞社による野球(スポーツ)イベントの展開過程ー1910~1925年を中心にー, 立命館産業社会論集 Vol.40, No. 3, 115-134
- 西原茂樹, 2006, 1910~30年代初頭の甲子園大会関連論説における野球(スポーツ)の教育的意義・効果に関する所説をめぐってー『大阪朝日』『大阪毎日』社説等の分析からー, 立命館産業社会論集 Vol.41, No.4, 65-83
- 野田洋平他, 1991, 高校野球に関する意識・イメージについて, 茨城大学教育学部紀要教育科学, No.40, 81-97
- 清水諭, 1998, 『甲子園野球のアルケオロジーースポーツの「物語」・メディア・身体文化ー』, 新評論
- 坂上康博, 2001, 『にっぽん野球の系譜学』, 青弓社
- 高井昌史, 2001, メディアの中のスポーツと視聴者の意味付与ー高校野球を事例として, スポーツ社会学研究, Vol. 9, 94-105
- 田代正之, 1996, 中等学校野球の動向からみた「野球統制令」の歴史的意義, スポーツ史研究, No. 9, 11-26
- 津金澤聰廣編, 1996, 『近代日本のメディア・イベント』, 同文館
- 坪田暢允, 1970, 新聞に報道されたスポーツ種目並びにその面積についての一研究, 名古屋学院大学論集人文・自然科学篇, Vol. 7, No. 2, 244-269
- 綿貫慶徳, 2001, 近代日本における職業的野球誕生に関する史的考察ー新聞社主催による野球イベントの分析を中心としてー, スポーツ史研究, No.14, 39-53
- 横井康博・守能信次, 1997, 高校野球の持つ価値と問題性に関する一考察, 中京大学体育学論叢, Vol.38, No. 2, 45-52

All–Japan High School Baseball Championship Tournament at Koshien Covered by Newspapers and Television

KIHARA Motohiro* and KUSHIKI Yusuke**

(Keywords : Koshien, high school baseball, inter high school championship games, newspaper, television)

Abstract

The word “Koshien” has come to mean the sacred ground which not only signifies a mere ballpark, but also the highest place where high school baseball players gather to play the game. It is said that newspapers, or what is called “the best–selling everyday media,” had given a great impact to form the Koshien event till the 1960s when TV sets started to spread over Japan as another influential media. It is a well–known fact that high school baseball at the Koshien has been taken up on a large scale by newspapers and TV programs since then.

This study aims to clarify how differently high school baseball at Koshien is treated from other sports based on the empirical data such as the newspaper coverage areas, TV broadcasting times, and so on.

The areas of sports coverage in *Asahi Shimbun*, the Tokushima newspaper, and *Yomiuri Shimbun* were measured focusing on the month of August when the High School Baseball Championship was held at Koshien, and compared to other sports events. The result shows a peculiar tendency in the difference of the treatment between All–Japan High School Baseball Championship games and the inter–high school championship games of other sports which are similar national sports events for high school students.

In TV broadcasts, high school baseball at the Koshien has received exceptional treatment as well as in newspapers. These media treatments have been influencing the ardent high school baseball fans till now, and at the same time, the amount of the newspaper and TV coverage has continually increased.

*Naruto University of Education

**Wajiki Junior High School